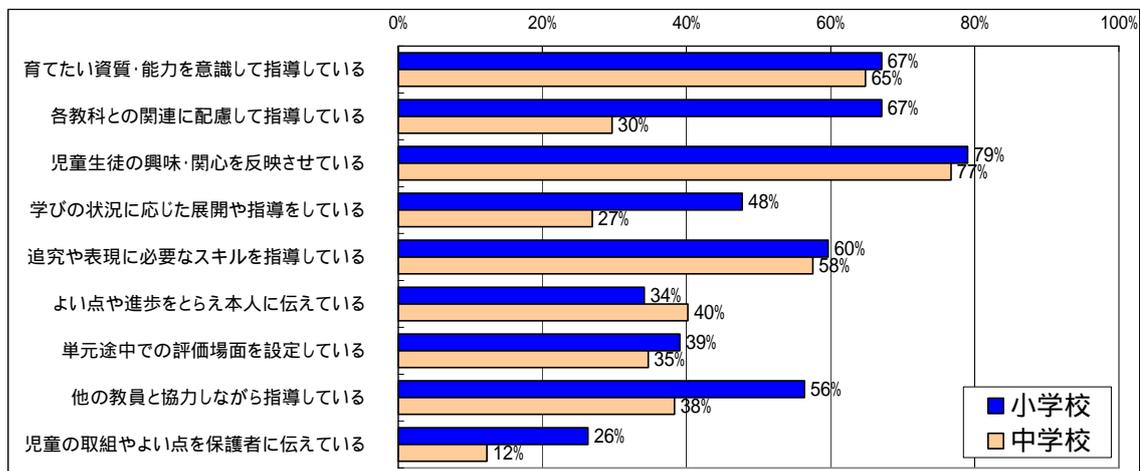


調査研究の概要について

平成16年度に実施した「『総合的な学習の時間』に関するアンケート調査」結果では、教師の多くが、児童生徒の主体的な学習活動を重視し、育てたい資質や能力を意識して指導に当たっていること（図1）や、児童生徒に様々な力が身に付いてきていると感じていること（図2）が分かりました。その一方、児童生徒のよい点や進歩の状況をとらえて本人に伝えている教師は少なく、児童生徒にどんな力が身に付いてきているかをとらえることが難しいという課題も浮かび上がってきました（図1）。

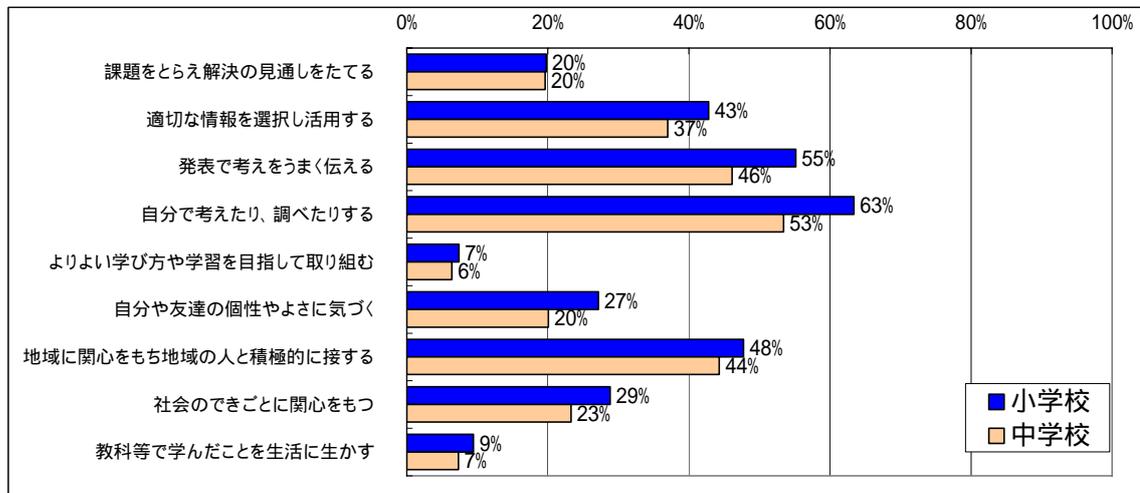
質問：あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。（複数回答）

図1



質問：「総合的な学習の時間」を実施する以前と比べて、児童生徒には、どのような変化がありましたか。（複数回答）

図2



実施：平成16年11月～平成17年1月

対象：小学校教員 243名、中学校教員 219名(教職5年目、10年目、20年目研修受講者)

そこで、本年度は、下記の小学校に聴き取り調査を行い、総合的な学習の時間の指導やカリキュラムの改善を図るためにおさえておきたいことを整理して、本冊子にまとめました。単元開発や授業づくりのポイントを整理し、それらを共有することは、各学校におけるこれまでの取組について、その成果を確認するのに役立つとともに、さらに多様な実践を生み出す手がかりになるものと考えます。

なお、本冊子の作成に当たっては、宇都宮大学教育学部松本敏教授に、ご指導、ご助言をいただきました。

調査協力校（聴き取り調査：平成 17 年 7 月～8 月）

- ・ 宇都宮市立国本中央小学校
- ・ 足利市立青葉小学校
- ・ 栃木市立栃木第四小学校
- ・ 那須町立高久小学校
- ・ 那珂川町立武茂小学校（旧馬頭町立武茂小学校）